

リスクアペタイト・フレームワーク(RAF)構築

地域金融機関向けRAFワークショップサービスの紹介

pwc

加速するRAFの導入に向けた取り組み

日本において、リスクアペタイト・フレームワーク(RAF)は、2013年9月の金融検査方針の見直しにより大手行の検査項目に採用されたことを受けて急速に認知度が高まっている。それまでは、大手行と一部の金融機関だけで導入が進んでいたが、金融機関全般に広がりを見せている。日銀が2016年1月に実施したアンケート調査(銀行・上場企業96社参加)では、「RAFを構築している」との質問に、33%が構築している(予定・検討中を含む)と回答した。金融機関等の実に3社に1社がRAFの導入を進めており、この流れは今後も継続すると考えられる。

RAF導入のメリット

- リスクに対する責任範囲の明確化(説明責任の確保)
- リスクテイクによる収益機会の追求と競争優位の確保
- リスクをコントロールした経営の実現(想定外損失回避)

RAF導入が急がれる理由

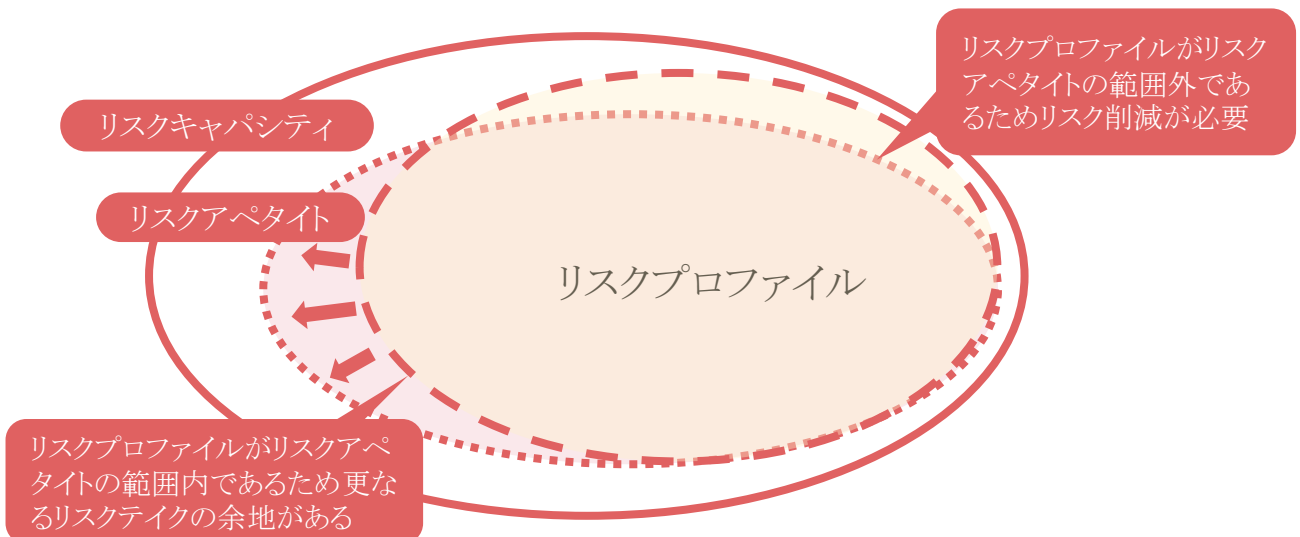
- RAFの導入および定着化までには長期間を要する
- 導入した後も外部環境の変化に応じた見直しが必要
- 収益機会の逸失、予期せぬ巨額の損失の管理は必須の事項

RAFに含まれる概念の整理

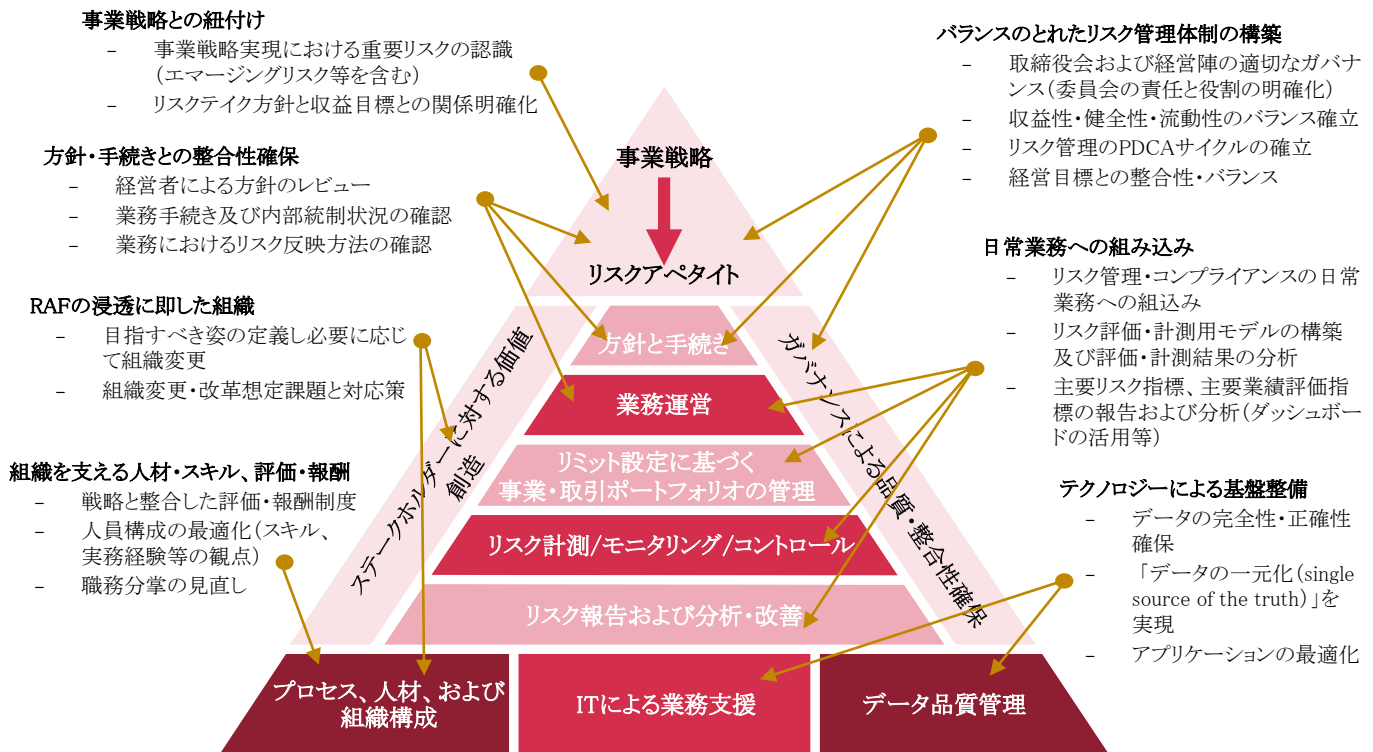
リスクキャパシティ: 組織が許容できる最大のリスク量

リスクアペタイト: 組織の目的や事業計画を達成するために、進んで受け入れるリスクの種類・量

リスクプロファイル: 組織が現時点で保有しているリスクの種類・量



RAFに含まれる具体的構成要素(概要)



PwCの支援内容(RAFワークショップの実施)

PwCでは、RAFワークショップを通じた、貴社におけるRAFの認識共有、具体的なRAF/RASの検討および最終化までを約6週間で実現できるよう支援いたします。

	ステップ1 RAFワークショップ	ステップ2 RAF/RASの検討	ステップ3 RAF/RASの完成
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> RAFとは何か、具体的に構築するのに何が必要で何をするかを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> リスクアペタイト・フレームワーク(RAF)、リスクアペタイト・ステートメント(RAS)を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> RAFおよびRASの検討結果を取りまとめてRAFおよびRASを最終化する
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 主要部署を集めたワークショップ(1-2日)を開催し、資料作成から当日のファシリテーションまでを担当 <p>(支援期間) 約1週間(随時訪問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> RAFおよびRASについて全体、リスク別(定量/定性)、ストレステストの内容を貴社とディスカッションを通じて検討する <p>(支援期間) 約3-4週間(2-3回訪問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> RAFおよびRASについて文書化する際の支援と文書化した後の最終的な内容のレビュー RAF/RASに関するポリシーの作成支援 <p>(支援期間) 約1-2週間(随時訪問)</p>

お問い合わせ

PwCあらた有限責任監査法人
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング
ガバナンス・リスク・コンプライアンス・アドバイザリー部
E-mail : pwc.grc@jp.pwc.com